

学校点描

1年生の蛇口が三連休の後、凍ってしまいました。ストーブで温めたりしながら、一昨日遅くようやく、水が出ました。

《S 中学校》

NO.14 H31. 2. 14

担当：教頭

5日（火）には、1年生、技術室の脇の雪を重機が入って“雪まくり”を行ってもらいました。また、11日（月）は、玄関前の大きな雪の山を排雪してもらいました。お陰様で、1階教室棟に光が入り、明るい雰囲気与生活が送れるようです。

毎朝の除雪は、まずは早く学校に出勤した教師で玄関前の階段を除雪しています。その後は、JRC委員の生徒たちがボランティアで除雪作業を手伝ってくれています。集まってくれる生徒たちは、一生懸命スコップとスノーダンプで、玄関前全面の雪をかいてくれます。応援団長のA・Tさんが、大きな声で挨拶したり、指示を出してくれています。中学時代に登校して除雪したことは、きっとこの先都会に住むことになっても忘れることはないでしょう。

インフルエンザで休む生徒が先週から少しずつ出ていましたが、今週はその生徒達が復帰して、本日は1名になっています。なんとかこのまま受検までおさまってほしいと願うばかりです。

哲学と花と「ちくしょう」

「すみませーん、お花を飾らせてください」と、女性の方が職員室に顔をのぞかせます。実は、お花屋さんでもあるその女性は数週間ごとに職員玄関付近にボランティアでお花を飾ってくれているのです。「遅く来て誠に申し訳ありません」胸には新聞紙に包まれたたくさんのお花を抱え、女性はいつものように、丁寧な挨拶を終えると、外気が入り冷えてきた玄関に戻って、黙々と美しい花を飾る作業に入ります。季節とともに花が変わっていることに気づく来校者は少ないかもしれません。でも、「学校の何かの役に立てばと」無償でお花を飾ってくれる地域の女性。学校はこのような方々から支えられているんだなあと改めて強く思います。

ある学年の集会で“自分が自分らしく振る舞える集団”について語りました。自分が自分らしくあることが普通でなくてはいけないこと。誰かに遠慮したり、誰かの視線を恐れて自分らしさやよさを失うことは、生活していても幸せに感じることはないこと、そんな話をしました。最後に、『今、あなたは、あなたらしく自分のよさを振る舞えていますか。正しいことは正しいと何にも染まらないと言える自分がいるのならば、それをがんばって持ち続けなさい』とメッセージを送りました。

「心」の問題に関心を持たせるのはとっても大事なことだと思います。例えば「真の正義」とか「人間の死」を考えるなんていう時間は授業にはありません。教師は授業だけやっているわけではありません。時に哲学の問いのようなことについて真剣に語ります。しかし、それが価値観の押しつけであっては、中学生にとってはただのつまらない、退屈なお説教の時間になってしまうのです。“人間としての生き方を語る”技術が教師には問われています。

わたしが以前知っている生徒に、いつも「ちくしょう、ちくしょう」とつぶやく生徒がいました。「ちくしょう、ちくしょう」とつぶやけばつぶやくほど、さまざまなトラブルに彼は巻き込まれていきました。

不思議なことに「ちくしょう」の言葉のあとに、また「ちくしょう」という言葉が出るような行動をとってしまうのです。

わたしは、最近、やる気のからくりに関する哲学の本を読みました。するとこの本から、あの「ちくしょうの連鎖」について答えを見つけた思いがしたのです。

“・・・同じ環境の中にいたとしても、人はそれぞれ違う捉え方をしています。現実の中に溢れている天文学的な数の風景から、自分が意識したものを選び出しているのです。あの車欲しいなあと思い始めると、その車をいたるところで見かけてしまう。妊娠したとたん、街ですごい数の妊婦を見かける。好きなミュージシャンの曲がたまたま入った店でよく流れる。グッチの鞆を買うと、町中でグッチを見かけるようになる。

「実は高級だった」と知ると、その食べ物が急に美味しく感じられる。すると無意識にそのことをのぞんでいるんだと勘違いし、そちらへ体を反応させてしまう。凹むことが 2.3 回続いたら要注意。あなたは知らないうちに凹むようなものを続けて発見しようとしている。だから心がそのモードになっているときは、次々と凹むことが起こっていく。・・・”

「ちくしょう」という言葉を発している限り、自然に「ちくしょう」と思いやすい行動を無意識に体は選んでいるということなのかもしれません。



「飾らせていただいてありがとうございました」と、女性は 30 分ほど寒い場所での作業を終え、再び挨拶に来てくれました。

見ると、玄関付近にはさまざまな表情の春の花が並びます。この小さな花でさえ置く場所や見る角度を少し変えただけで、その華やかさが一段と鮮やかになるんです。ふと、花を眺めながら、「生徒はどうなんだろう」なんて考えてしまいます。花でさえ見る角度でこんなに美しさが違うのであれば、中学生はなおさら、どこから見るかによって

今まで見えなかった「よさ」が見えてくるのではないだろうか。

「ちくしょう、ちくしょう」と無意識につぶやいていた過去の生徒を、違う角度で思い出してみたときに、学校の除雪に汗をかいていた姿が浮かんできました。

その生徒に、本当の自分の良さを思い描かせるのは、きっと大人の責任だったのです。

山崎拓己 (2008) 「やる気のスイッチ! SWITCH OF SPRIT」Sanctuary books

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。